

春雨草紙

帝キホ

原作者
脚色
監督者
撮影者
主要役割

吳服屋の番頭泰吉
藝妓屋の養女お勝
お勝の友人 鈴子
實業家細川兼太郎
銀子の夫加島玉治郎
細山の妻きく子
お勝の養父仙三

高川 望 池 大
津 勇 本 森
月 津 田 太 爰
林 信 太 郎 勝
節子 清郎 子子修 一郎勝郎



眞寫
「春雨草紙」帝キホ大森勝作品
右より川田修・高津愛子

旭園
照枝
千枝
子子子子子

梅美路
村美路
花陽英
子子子子子

大森勝
に次ぐ作

解説
品である。
大森勝氏の
「お國の戀日記」
に次ぐ作

同抱へ
小菊
勇

つ人たは選んだが、優しい泰吉に悲しき泰吉の身重の身體を思ひ惜んでお勝へお勝はんでので吉に敢はんでの二道

美略筋——春雨ソリが降る頃。藝妓屋の養女としていたが、稽古踊りに友達の銀子に逢ひ、彼女の夫である。お勝の養父母は金に目がくれ細山の妻も望むもお勝は泰吉の注告もきかず細山の妻さは悲しき泰吉とも自分は妾であると知つて悲んだ。お勝を捨てゝ終つた。細たに死んだ。細山がお勝の夫である。

お勝の養母おしも
お勝の友達藝者
同抱へ妓小勇